

2014年7月20日 主日礼拝

説教 「ノアの箱船」

創世記6章5-22節

【聖書の読み方】

「ノアの箱船」。東日本大震災を思うと、この箇所正面から取り組むには勇気が必要。そのためには、神さまを信頼して聖書を読むこと。私たちが愛して、ひとり子をも、惜しまずに与えてくださった神さまのあわれみを信じて読むことがたいせつです。

【神さまの困惑】

「わたしが創造した人を地の面から消し去ろう」(7)とあります。大洪水の原因は神さまの決断にあったことは事実です。けれども、神さまは、「地上に人を造ったことを悔やみ、心を痛められ」(6)、「わたしは、これらを造ったことを残念に思う」(7)ともおっしゃいます。平気の決断ではなく、痛む心で、こんなことになるのなら、人を造るのではなかったと悔やんだ。世界に悪があふれ、神さまの前には二つの選択がありますが、それはどちらも心痛む選択。

ひとつの選択は、「人の悪がますます増大するのを忍耐強く見続ける」。けれども、人がたがいに悪の限りを尽くして傷つけ合うことを、愛なる神さまは見ていることができません。

もうひとつの選択は、「これ以上の悪をとどめるために、すべての人と動物を滅ぼしてしまう」こと。これもまた神さまには耐え難い。神

さまが愛するために造った世界、神さまを愛させるために造った世界を、終わりにしてしまうことも、諦めがたいのです。

神さまは、どちらでもない第三の道を選びました。それは、ノアというひとりの人間に賭けること。ノアが、神さまを愛して、神さまと共に新しい世界を造ることに賭けることにしました。神さまは私たちに賭けるお方。不確かな私たち。信用できない私たちに信用して。そして、私たちの信用が足りないところをご自分で補ってくださるのです。

人が神さまと共に生きることに賭け続ける神さま。それも安全なところに身をおいてではなく、ご自分も心を痛めながら、私たちといっしょに、歴史を作ってくださいの神さま。やがて、神さまは、決定的な行動を起こされました。イエス・キリストにおいて、人となって十字架に。そうやって、賭けるに値しない私たちに、ご自分で補ってくださった。私たちは、神さまにとってたいせつ。また、私たちに愛されることは、神さまにとってたいせつ。一人の人が神さまを愛するかどうかに、世界の運命が左右されるほどに、神さまは私たちの愛を求めておられる。

【東北被災地に語る言葉】

この聖書箇所は、東北の被災地に何を語るのでしょうか。まず、「わたしは、決して再び人のゆえに、この地をのろうことはすまい」(8:21)と約束されたのですから、自然災害は

神さまの裁きではありません。神さまは、滅ぼすのではなく、どこまでも寄り添う。十字架にまで。人に寄り添い、人の内に住んで、悪から人を解き放つことを決心されたのでした。

【自然災害に向き合う方法】

聖書は、神さまが自然災害の発生を許す理由を直接には語っていません。聖書が語っているのは、私たちがそのときどのような道を選び、生きるべきであるのかです。

第一に、私たちは神さまと共に自然災害に向き合うことを求められています。自然災害を防ぐことはできません。でも私たちは、災害のただ中でも、愛をもって世界をケアすることができます。神さまがそうさせてくださるのです。

第二に、私たちは科学の成果も用いて自然災害に向き合うべきです。ノアは持てる限りの知識と技術を発揮しました。私たちも、祈りのうちに、科学の成果を駆使して、防災につとめ、予知し、避難し、救助し、復興に取り組むべきなのです。

第三に、私たちにはいま、ここで、それぞれ使命があります。「ノアは、ぶどう畑を作り始めた農夫であった」(9:20)とあります。大洪水の後、大地をコツコツと耕して、ぶどう畑を作り始めたノア。私たちにもそれぞれ、神さまからの使命があります。そんな私たちに神さまが、さあ、いっしょに働かないかと、今日も励ましていただきます。